

総合単元名	社会のきまりを守って	5月～7月	全9時間
めざす子ども	約束や社会のきまりを守り、公德心をもって生活できる子	中心項目	4ー(1)
ねらい	約束や社会のきまりを守り、公德心をもって生活しようとする態度を育てる。	関連項目	4ー(4)

単元設定の理由

児童はきまりを守らないといけない、という意識はもっている。しかし、公德である、目に見えないきまりの存在に気付くまでには至っていない。そこで、目に見えないきまりのよさや必要性に気づき、公德心をもって生活しようとする態度を育てたいと考え、本単元を設定した。

時期	教科・特別活動 総合的な学習の時間等	道徳の時間	常時活動 家庭との連携	子どもの意識の深まり	
5月	①教科等外 5月(1時間) 「健康診断」 きまりを守って静かに順番を待つことができる。	②<愛校心> 4ー(4)5月<1時間> 「かべにつけた手のあと」 自分のつけた手のあとをふいているたつやを見ているひろしの気持ちを考えることを通して、自分たちの学校を自分たちの手でよりよくしてよさに気づき、毎日生活している学校を大切にしようとする心情を育てる。	(◆登下校) 一列歩行など、ルールを守って安全に登下校することができる。	①きまりを守らないと周りの人に迷惑をかけることになるな。 ◆一列で並んで登下校しないとみんな危険だな。	
6月	③学校行事 6月(2時間) 「社会見学」 それぞれの見学先のきまりを守り、みんなが安全に楽しく学習することができる。		④<公德心・規則の尊重> 4ー(1)6月<1時間> 「雨のバス停留所で」 バスの中で、お母さんの横顔を見ながら何かを考えているよし子の気持ちを考えることを通して、目に見えないきまりを守ると、みんなが気持ちよく生活できることに気づき、進んでマナーを守ろうとする心情を育てる。		②みんなが毎日気持ちよく過ごせるように、みんなが学校を大切にしているいな。 ③つい夢中になってしまって、大きな声を出してしまうことがあるよ。みんなが学ぶ場ということを忘れず、心のブレーキをかけていかなないいな。
7月	⑤児童会活動 7月(1時間) 「委員会活動」 それぞれの委員会活動を通して、公共物や公共の場を大切にすることを必要を感じ、公德を優先した言動をとることができる。		⑥<公德心・規則の尊重> 4ー(1)7月<1時間> 「けんじのわすれ物」 川原に向かって走り出したけんじの気持ちを考えることを通して、公共の場において守るべき事柄を理解し、マナーを大切にしようとする態度を育てる。	(★帰りの会) みんなが楽しくなるような学級遊び(クラスレク)のルールについて考えることができる。	④お互いに気持ちよく生活するために、目に見えないきまりがあるんだな。みんなのことを考えて行動できるのは素敵だな。 ★みんなが楽しめるようにするには、どんなルールがいいのかな。
	⑦体育 7月(2時間) 「浮く・泳ぐ運動」 浮く・泳ぐ運動の心得を守って安全に気を付けて学習することができる。		(■業間遊び) 主体的にルールを守りながら楽しく遊ぶことができる。	⑤委員会活動は、みんなが安心して気持ちよく学校生活を送るための活動だからやりがいがあるな。 ⑥マナーはみんなが気持ちよく生活するためにあるんだ。みんなのことを考えて行動できるようになりたいな。 ■自分勝手にしないで、みんなと一緒に楽しめるように考えてルールを守ったよ。そうすると、自分もとても楽しくできたよ。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">約束や社会のきまりを守り、公德心をもって生活できる子</div>					

# 「道徳の時間」学習指導案

指導者 掛川 裕子

- 1 日時 2014年(平成26年)6月27日(金) 第5校時
- 2 学年 第4学年 男子18名 女子7名 計25名
- 3 主題名 社会のルールを守る 中心項目 4-(1) 〈規則尊重・公德心〉  
関連項目 4-(4) 〈愛校心〉
- 4 ねらい バスの中で、お母さんの横顔を見ながら何かを考えているよし子の気持ちを考えることを通して、目に見えないきまりを守ると、みんなが気持ちよく生活できることに気付き、進んでマナーを守ろうとする心情を育てる。
- 5 資料名 雨のバス停留所で (出典：4年生の道徳 : 文溪堂)

## 6 主題設定の理由

- 他人に迷惑をかけないこと、公共物を大事にすることなどは、社会生活を円滑に営むために大切な心構え公德である。そして、トラブルを未然に防いだり解決したりするために、それらを成文化したものが法やきまりである。

この時期の児童は、集団でする競技や遊びを好み、自分たちで作ったきまりを大切に考え、よく守ろうとする。しかし、学校や家庭のきまりに対しては、守られるという意識もあり、また自分勝手な理由から守れないこともある。きまりや規則は集団の目的を遂行し、集団生活を円滑にするために必要なものである。したがって個人の好き勝手は許されず、時にはつらいこともある。人はだれも自分の思うように生きたいと願い、きまりや規則は束縛されるものと映る。

そこで、きまりや規則の意義を十分考え、これを守って自分の義務を果たそうとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

- 本学級の児童は、知識として「きまりや規則は守らなければならないもの」と分かっているが、行動が伴っていないのが現状である。事前アンケートでは、100%の児童が「みんなで使うものを大切にしている」と回答している。さらにその72%の児童が、「みんなが困るから」「みんなに迷惑だから」「みんなのものだから」と理由づけている。また、「ほかのクラスのことを考えて行動している」にも100%の児童が肯定的な回答をしており、その68%の児童が「他のクラスに迷惑だから」「他のクラスの邪魔になるから」と理由づけている。しかし、普段はノートを提出するときなどに、みんなのことを考えず我先にと競い合い、トラブルになることもある。このように、アンケート結果は肯定的な回答があまりに多く、現状とはかけ離れた回答をしている児童が多い。その要因として、二点考えられる。一点目は、学校や社会のきまりを意識して生活していないため、アンケート等で改めて自分の言動を振り返っても、きまりを守れていないという自覚が薄いことである。二点目は、よくない言動をすると叱られるという意識が強いため、アンケート項目には肯定的な回答をしてしまうことである。さらに、普段から公德心をもって行動しているように見える児童の中にも、「ルールを守らないと自分がついていけないから」といった自分本位な理由づけをしている児童もいた。

また、少数ではあるが、「〇〇するとみんな気持ちがよいから」「〇〇だと自分も友達も嫌な気持ちになるから」「〇〇してみんなが嬉しくなるようにしたいから」といった理由づけをしている公德心の高い児童もいる。それらの児童には、進んでごみ捨てに行ったり、授業の後片付けを率先して行ったりするなど、みんなのために行動する姿が見られる。それらの行動が、他の児童の心情に「自分も真似したいな。」などと、影響を与えつつある。

- 本資料は公共の乗り物に乗るときの順序について、社会のルールを扱った資料である。よし子は、雨の日にバス停近くのたばこ屋の軒下で、ほかの客とバスを待っていたが、バスが見えたので、真っ先に走ってバス停に並んだ。その時、よし子の母親は、自分が並んでいた場所まで引き戻し、順番に並ぶことを教える。いつもと違う母親のこわい顔を見て、よし子は自分の行動を考え始めたという内容である。

主人公のよし子のような行動は日常的に子どもたちによく見られる。自分自身の問題として捉え、きまりや規則の必要なわけを考え、進んでこれを守ろうとする心情を育てるのにふさわしい資料であると考えられる。

導入では、雨の日に並んでいる写真を提示し、情景とその場にいる人々の心情をつかませて資料につなげていきたい。展開では、まず、心待ちにしていたバスが見えた時のよし子の素直な気持ちを考えさせたい。中心発問では、みんなの気持ちを考えた上での言動など、目に見えないきまりを守ること、みんなが気持ちよく生活できることに気付かせたい。終末では、自らきまりをつくり、それを守って生活していく様子を紹介し、今後の実践への意欲を高めたい。

学習後は、業間遊びで楽しく遊べるよう考えてルールを守っていけたり、水泳の授業の心得を守って安全に学習したりすることで道徳的価値を高めていきたい。

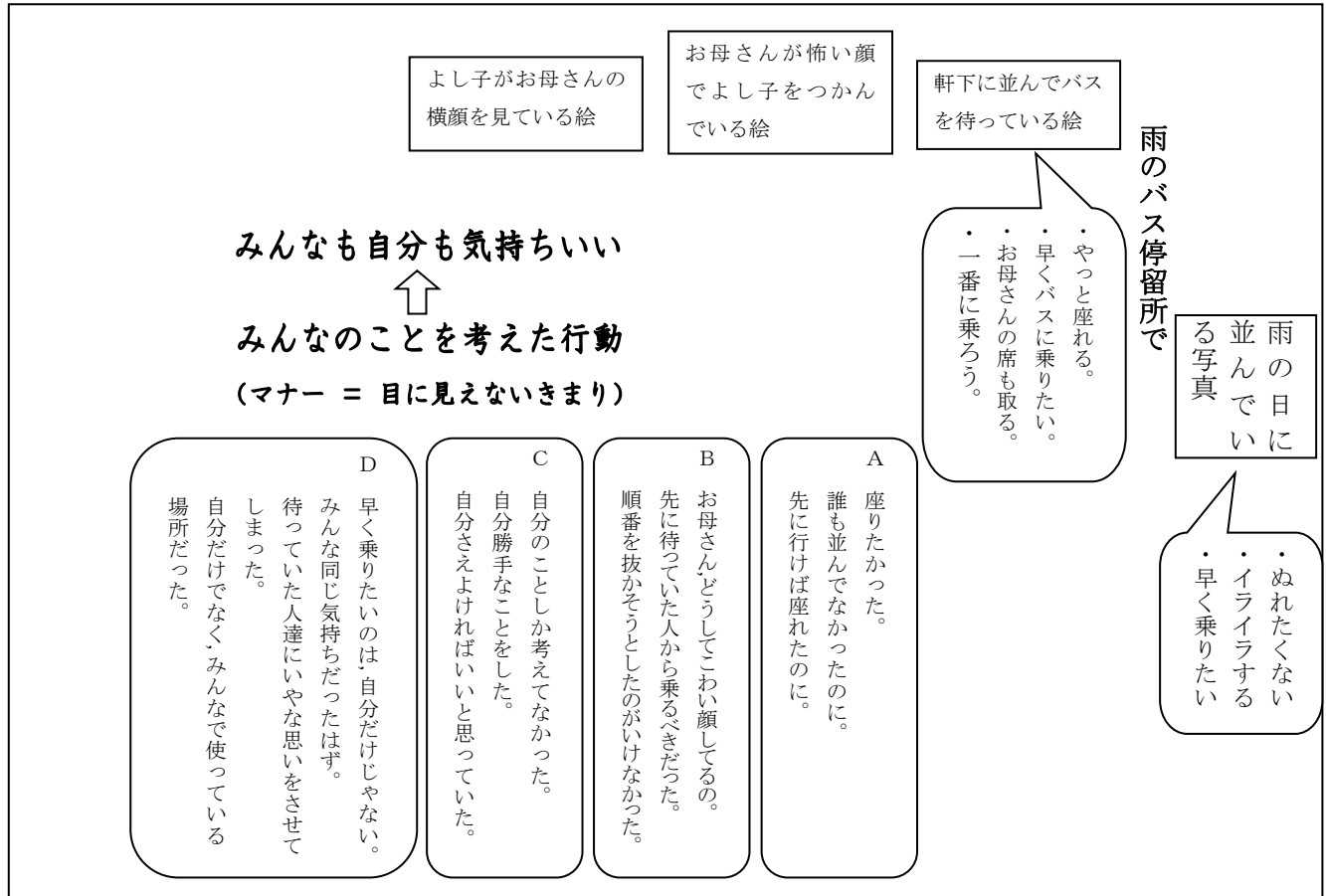
## 7 準備物 場面絵, ワークシート

### 8 学習過程

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	支援(○)・評価(★)・改善点(◎)
導 入	1 雨の日の情景をつかむ。		○雨の日に並んでいる写真を提示し、情景とその場にいる人々の心情をつかませる。
展 開	2 資料「雨のバス停留所」を聞き、よし子の気持ちを考える。	○バスが見えたとき、よし子はどんな気持ちで駆け出したのでしょうか。 ・早くバスに乗りたい。 ・お母さんの席も取るよ。 ・お土産をぬらしたくない。 ・やっと座れる。	
	3 バスの中で、お母さんの横顔を見ながら何かを考えているよし子の気持ちを考える。	◎お母さんの横顔を見ていたよし子さんは、自分がしたことを振り返って、どんなことを考えたでしょう。 A (自分の思いが優先) ・先に行けば座れたはずなのに。 ・誰も並んでなかったのに。 B (他者に目が向く) ・お母さん、どうしてこわい顔してるの。 ・バス停には誰も並んでなかったけど、先に待っていた人から乗るべきだったかも。 ・順番を抜かそうとしたからいけなかったな。 C (勝手な自分に気付く) ・自分のことしか考えてなかった。 ・自分勝手なことをした。 ・自分さえよければいいと思っていた。 D (社会との関わり) ・早くバスに乗りたいのは自分だけじゃない。みんな同じ気持ちだったはず。 ・待っていた人達に嫌な思いをさせてしまった。 ・自分だけでなく、みんなが使っている場所だった。  [ 補助発問 ] ●お母さんが(何も言わず)よし子さんを引きもどしたのは、なぜでしょう。 ・待っている人の気持ちを考えて行動してほしかったから。 ・マナーに自分で気付いてほしかったから。 [ 補助発問 ] ●並んでいた人々はどんな気持ちだったでしょう。 ・何で先に行くんだ。 ・マナーがなってない。	◎ワークシートに自分の考えを書かせ、児童の考えを見取る。  ○「順番を守らず、抜かして行ったことがいけなかった」という意見には、バス停には誰も並んでなかったから、抜かしたことにはならないのではないかとゆさぶりをかける。  ★目に見えないきまりを守ると、みんなが気持ちよく生活できることに気付くことができたか。

終末	4 教師の説話を聞く。		○わたしたちの道徳を活用する。
	5 ふり返りをする。		○ワークシートを活用し、本時の道徳的価値について自分の考えをまとめさせる。

## 9 板書計画



雨のバス停留所で 名前 )

◎お母さんの横顔を見ていたよし子さんは自分がしたことを  
ふり返ってどんなことを考えたでしょう。

よし子がお母さ  
んの横顔を見て  
いる絵

○今日の学習を振り返って考えたことを書いてください。

Blank writing area with vertical dashed lines for reflection.

Blank writing area with vertical dashed lines for reflection.